

URA の湯遍路旅日記 2012

—北京・山西省・チェンマイに行く—

浦 達 雄

I. はじめに

今回取り上げる国は中国とタイである。日中関係は、尖閣諸島の問題で 2012 年 9 月半ば以降悪化しており、本当に困ったことになったと思う。時期が解決すると言われているが、先方はプライドの高い国で、なかなかそうはいかない。私は、民間レベル、さらには庶民レベルの交流が主体で、そんなに問題はない。

そしてタイ。2011 年秋は洪水で大変だった。喉もと過ぎれば、忘れる日本人が多い中で、日本のマスコミの対応は異常だった。私は、2011 年 12 月下旬に学生引率でタイを訪問したが、日本人学生は 4 人ほどキャンセルし、留学生 6 人だけで訪問した。当時、伝染病が怖いとか、色々と言われたが、やはり正しい情報を頭に入れたいと実感した。しかし、この情報の把握が難しい。「怖いところへは近づかない」。これが日本流の解釈で、「自己責任」も大切だと考える。

本報告では、2012 年に体験した北京とチェンマイ周辺の温泉体験のレポート主体に、+α (山西省の観光資源調査) を合わせて、少しでも面白い情報をお伝えしたいと思う。

II. 春節（旧正月）後の北京行き（2012 年 2 月 17 日～21 日）

1. 2012 年 2 月 17 日（金）：移動、瑠璃廠

NH 159 便は、現地時間 12 時 50 分頃、少し遅れて北京首都空港へ着いた。やっと 14 時発の空港快速 25 元に乗ったが、乗換駅の東直門で、エレベーターの降りる階を間違えて、大変なことになった。2 号線に乗る予定が、違うところに行ってしまう、重い荷物を持って、階段を上下したので、疲れてしまった。

15 時過ぎには北京宝辰飯店にチェックイン。早速、中国温泉旅游協会へ電話したが、言葉が通じないので、北京国際飯店の張氏へ電話して、通訳をしてもらった。結果、16 時から 30 分だけ訪問した。温泉の素や日本酒などのお土産を差し上げて、機関誌を数冊頂いた。そして、お茶も頂いた。感謝。北京では何をするかと聞かれたが、「入浴」と答えると、苦笑された。

その後、印鑑彫師の王師傅と大阪観光大学から帰省中の留学生・陳さんへ電話。陳さんは電話が通じなかったが、その後、電話があった。4,000 元のスマートホンにかえたらしい。18 時からいつもの瑠璃廠の民俗酒楼で夕食。陳さんは父親とやってきた。先方のご馳走になった。4 人で 400 元を超えたと思う。

2. 2012年2月18日(土): 瑠璃廠、菊水亭

10時30分起床、国際飯店の張氏へ電話したところ、15時30分に仕事が終わるとか。そこで、瑠璃廠へ行った。タクシーは19元。昨夜、行った店で、オイルマッサージをした。言葉が通じないので、「油」と書いたら通じた。2時間で248元だった。タイ式とほぼ同じで、中国式の方が丁寧な気がした。その後、前門の街をふらついて、写真を撮り、126路のバスで北京駅へ。駅前のいつものスーパーでクロックスを買おうとしたら、店が撤退していた。これまたショック。16時から張氏と菊水亭で夕飯。しかし、食べ放題は17時からということで、お茶を飲んで待機した。優雅です。食べ放題は、2012年1月から118元と168元に値上げしていた。これまたショック。118元の料理にして2時間ほど話をした。彼の話は面白い。今回は彼の給料、日本留学時代の話だった。

まずは給料。勤めて9年目だが、給料は下がったとか。勤務評定があつて、現在7級で1,800元。去年は8級で2,000元とのこと。最高は15級で、最低は1級らしい。そして、日本留学時代の話聞いた。大学は千葉大学(専門は経済)に入学したが、資金が続かず、不登校に…。その後、アルバイトをしながら、競馬で明け暮れることに…。1998年に329万円をあてたらしい。そのうち100万円は父親へ送金し、残りは競馬に消えたとか。私からの彼へのお土産は日本酒とタバコなど。

3. 2012年2月19日(日): 紅橋市場、天意市場

10時起床。10時50分から買い物。留学生の陳さんに同行してもらった。お嬢さんにふさわしく、タクシーでの移動となった。途中、何でも彼氏から電話が入るので、早めに開放することにした。紅橋市場では電池交換をした。彼女が粘って、28元が20元になった。携帯のカード4Gが60元、クロックスのサンダルが50元。それから電池で動く人形を買った。20元と50元。前に買ったものは2体で80元だったが、実際は1体20元程度と聞いてショックを受けた。その後、天意市場へ。タクシーは30分で、34元だった。ここは4年ぶりだと思う。クリスマスのモニュメントが残っていた。まずは昼飯。食堂は満席で、空席のあった羊肉のシャブシャブの店にした。2人で70元と安い。

4. 2012年2月20日(月): 虎坊路、瑠璃廠

予定では午前虎坊路、午後から小湯山だった。ところが、虎坊路で手こずった。張氏から地元のマッサージ店を教わったが、地図が大雑把でなかなか行けず、時間が過ぎた。想定する場所付近には3軒もあって困ってしまった。1軒目は128元と高く、ここは違うと思い、もう1軒へ。ここは40元と言われ、決めた。結局、次から次へとマッサージが進み、2時間20分で、210元だった。終わったのが15時40分となり、小湯山行きを断念。

5. 2012年2月21日(火): 帰国

珍しく8時30分起床。ホテル5階のレストランで朝飯を食べた。108元と高い。10時頃、陳さんから電話。空港まで見送るとか。何のことはない。日本への荷物(主に衣類など)運びだった。10時50分、ホテルをチェックアウト。お父さんが車を運転し、40分ほどで北京首都空港へ着いた。ANAのD25で、チェックインをしたら、荷物は25.6キロだった、余分な荷物のせいだ。北京ダックのお土産を頂いたが、どうしようかな。予定通り帰国。

Ⅲ. GW の北京行き (2012 年 4 月 26 日～30 日)

1. 2012 年 4 月 26 日 (木) : 移動、瑠璃廠

NH 159 便は、現地時間 12 時 50 分頃、北京首都空港へ着いた。時間があつたので、北京国際飯店の張氏に電話。土曜日 15 時 30 分に会うことになった。13 時 41 分発の空港快速 25 元に乗った。14 時 40 分に北京宝辰飯店にチェックイン。ホテル代 4 泊 (エキスペディア利用) で 2 万 1,900 円 (食事なし)。つまり 1 泊は 5,475 円。両替は 1 万円が 748.33 円。レートが段々悪くなっている感じだ。部屋から王師傅に電話。17 時 30 分いつもの瑠璃廠の民俗酒樓で夕食をすることに…。

2. 2012 年 4 月 27 日 (金) : 8 号温泉

昨夜、王師傅に 8 号温泉を調べるように言ったが、たぶん無理でしょう。そこで朝方にホテルのコンシェルジュに聞いてみた。「温泉」は通じない。紙に書いて「8 号温泉」と聞くと、ネット検索をしてくれた。朝陽公園にあった。ホテルから近そうだ。10 時から近くで買い物をした。10 元の本を 2 冊買った。失樂園と高校教師。それから美女のヌード写真集。これは 20 元だった。この書店は新古書店で、利用価値がある。さらにカバンを買った。35 元。

11 時 30 分、ホテルからタクシー乗車。7.3 キロ走って 8 号温泉に着いた (写真 1)。所要時間は 18 分だった。20 元 + 3 元 (オイル追加)。11 時 50 分から 16 時 30 分まで温泉 + 昼飯 + 休憩を楽しんだ。ネットが無料で、URA 研究室をやっと探した。1 人 198 円で、カード払いをした。熱湯は 43 度で、王師傅はやっと入浴していた (写真 2)。平日なので、中高年のカップルが多かった。浴場はすべて裸入湯で、日本で言えば、サウナ的感覺である。大浴場はジャングル風呂だった。浴槽で王師傅の入浴写真を撮った、とても公開は出来ない (苦笑)。

3. 2012 年 4 月 28 日 (土) : 崇文門、楊梅竹斜街、東単

7 時起床。NHK の衛星放送を見た。10 時 30 分から崇文門の中華書店の旅游書店へ。バスで行こうと思ったが、満員だったので、地下鉄で行った。先回行った旅游書店だ。温泉関係の本と世界遺産の地図を買った。ここは定価販売で 61 元消費。

11 時 40 分、8 路のバスに乗って前門へ。楊梅竹斜街のマッサージ専門店へ行った。看板が少し変わっており、経営者が変わったみたい。全身マッサージが 60 分 58 元だった。16 時から北京国際飯店の張氏と夕飯。東単のレストランへ。彼のおごりとなった。彼にはお酒とタバコのお土産を差し上げた。

彼は車を 2011 年 10 月に買ったとかで、色々話してくれた。車はフォードで、16.9 万元。資金は、実母 5 万元、義父 8 万元、張氏夫妻の手持ち 7 万元とのこと。ガソリン代は月 500 元、駐車場は職場 230 元、マンション 200 元。運転は奥さんとのこと。保険は 5,600 元/年、税金は 1 万 3,800 元/年らしい。彼の誕生日は 3 月 4 日で、44 歳の記念で、義父から軍隊使用の時計をもらったとのこと。5,000 元と高い。

食後、私が北京に持参した時計の分解掃除の話になって、ホテルの地下の時計屋に同行してもらった。20 年ほど前に買ったロレックスを分解掃除してもらった。3 個持参したが、分解掃除は 1 個 180 元で、2 個分解掃除を行い、分解掃除をしない残りの 1 個は彼に差し上げた。

この時計は香港・ソウルなどで1万円程度で買ったものだ。もう時効だが、偽物らしい（苦笑）。でも、自動巻きなので、今でも使える。張氏は日曜日から家族5人で、1泊の予定で、近郊へ旅行に行くとか。1泊は598元（朝食付き）。2部屋を確保。

4. 2012年4月29日（日）：紅橋市場、瑠璃廠

10時に掃除した時計を受け取って、付近を散歩した。以前に温泉飯店を発見したので、出向いてみると、道路になっていた。残念。そこで、東便門から39路のバスに乗って、紅橋市場へ。電池で動く人形を買った。1体45元が、2体で40元になった。不思議だ。隣のビルの地下2階で大食堂を発見。山西特色面のコーナーで刀削面7元を食べた。靴屋ではクロックスを見たが、120元と高い。

2時間ほどホテルで休憩して、地下鉄で和平門へ。徒歩で民俗酒樓。17時30分から王師傅と飯。2人で142元だった。彼に注文していた印鑑が完成した。20個で1,400元。日本円では2万円弱となる。18個は3年ゼミ生用だ。1個は好朋友浦達雄。もう1個はお土産。

5. 2012年4月30日（月）：帰国

7時起床。NHKの衛星放送を見た。10時からスーパーで買い物。瓜子と甘栗を買った。瓜子はゼミ生へのお土産だ。スーパーにはかなりのお客がいた。10時40分、チェックアウト。11時空港バス発車。16元。珍しく渋滞で、第3ターミナルへは12時20分着。予定通り、NH160便は出発し、18時10分に関西空港へ着いた。

IV. 8月のチェンマイ（2012年8月22日～26日）

1. チェンマイの温泉調査

8月22日から26日までの行程で、タイを訪問した。「大阪観光大学（OUT）とラチャプリユックカレッジ（RC）との研究及び教育上必要とする分野での交流に関する覚書」に基づく共同研究で現地調査に出かけた。場所はチェンマイとした。チェンマイ付近はタイにおける温泉集中地区で、2011年8月にチェンマイ東郊のサンカンペーン温泉を訪問し、調査を実施した。今回は東郊を除いて、北西郊さらには北東郊に位置する温泉を訪問し、調査を実施した。日本側から私を含めて2人、RC側は日本語担当者1人（S嬢）で、通訳とガイドは2011年もお願いした通称サユリさんをお願いした。サユリさんは、これまでの経験を生かし、調査温泉施設や宿泊先のホテルを選定してくれた。

8月21日（火）22時に関空集合。出発は0時30分という未明便で疲れるが、時間は有効に使える飛行機で、人気は高い。

2. 2012年8月22日（水）：移動、ロングステイのマンション、サンカンペーン温泉

予定のスケジュールはTG 673 関空0:30⇒バンコク4:20。バンコクには順調に着いたが、チェンマイへの乗り継ぎ便には3時間もの時間があって、時間を持て余した。ベンチに座って、時間の経過を待った。次はTG 102 バンコク7:55⇒チェンマイ9:15。チェンマイには、予定通り着いた。サユリさんのお迎えがあった。RCのS嬢は不在で、サユリさんの携帯で電話をしてもらった。空港にはすでに滞在しており、自分が着いたターミナル付近にい

た。RC 側は 2 人参加のメールが数日前に届いたが、1 人参加になった。予算の節約らしい。

サユリさんは、我々のために 2 ヶ月前に新車を購入していた（彼女曰く）。トヨタの車で 60 万バーツ（以下、B。1 B=約 2.5 円）。頭金は 15% で、毎月 1 万 B の支払いがあるとか。ちなみに 6 年の月賦らしい。まずはホテル。スーツケースを預けて出かけた。最初に銀行で両替をした。1 万円は 3,900 B だった。2011 年は 4,000 B だったのに…。

観光資源調査は 2011 年で終わったので、ロングステイ (LS) をテーマとして、11 時からチェンマイ市内を回った。日本人の LS は 5,000 人程度で、他の国の人は 1 万人程度らしい。日本人が LS をするマンションは 1 ヶ月で 4~6 万 B で、意外と高いと思った。LS と言えば、ミヤノイ（日本語では小さな奥さん）を求める日本人男性が多いらしい。ミヤノイは、1 ヶ月で 1 万 B の手当が必要で、食事などの生活費は別となる。付き合う場合、最初に本人へ 10 万 B、母親に 10 万 B のお礼をする義務があるらしい。結婚式をあげる場合は、30 万 B の支払いが生じ、とても楽園とは思えない。

GREEN HILL というマンションを訪問した（写真 3）。古い建物は 10 年ほど前に建築し、新館は 1 年前、現在、別のマンションを建築していた。タイ人の医師が経営しており、日本人は 50% 占めたが、現在は 20% 程度とのこと。毎月の支払いは 1 万 8,500 B、2 万 3,500 B の部屋があった。売店、レストラン、プールなどを完備した本格的なマンションである。ちなみに、1 軒家の購入となると、300 万 B~400 万 B とのこと。

その後、サンカンペン温泉へ。まずは ONSEN（温泉）。美人女将はバンコクで工作中とのことで、不在。前回見学出来なかった宿泊施設（写真 4）（写真 5）と源泉（写真 6）を見学した。源泉は沸騰泉で、蒸気が噴出していた。さらには、ルンアルーン温泉へ。ここは入場料が 15 B。サユリさんが源泉で作った温泉卵を食べた。美味しい。その間、温泉施設（個室のバス）に入浴した（写真 7）。料金は 70 B で、1 人用だ。硫黄の匂いがした。

昼飯は大通り沿いのレストラン。偶然にも、サユリさんの妹の主人にあった。食事を終えたばかりらしい。我々は 4 人で 330 B を消費した。食事は RC 側が提供し、1 人当たり 1 食 200 B の制限があるらしい。

その後、デパートに寄って、タイ専用の携帯を買った。メーカーはタイ製で、本体は 690 B、電話番号は 70 B。次回は別の電話番号を購入すれば、使えるとか。書店では地図を買った。2 部で 240 B。探した地形図はなし。

夕食は日本料理のレストラン富士にした。タイでは人気のレストランである。私は 155 B の弁当にした。19 時、ホテル CENTARA にチェックイン。1,500 B で朝飯付き。私はサユリさんの紹介で、マッサージに出かけた。数軒回ったが、休みで、ホテルのビルが入居する地下 1 階のマッサージ店となった。1 時間 250 B で、気持ち良かったので、延長を申し込んだら、夕食の時間ということで、断られた。2 時間だと 400 B とのこと。

3. 2012 年 8 月 23 日（木）：ポークアーン温泉

チェンマイから西北郊 45 km のポークアーン温泉へ行った。途中から山道に入り、山村の風景を見学した。9 時 40 分にホテルを出発。車はワゴン車で、専用のドライバーが付いた。車代（ドライバー込み）は 1 日 2,500 B とのこと。県庁、刑務所を通過して、10 時 17 分にラン園に到着。ランの花を見学した。10 時 30 分に出て、12 時に山奥の温泉到着。道中、花卉栽培、キノコ、バナナ、とうもろこし、水田などの風景が広がっていた。政府の麻薬撲滅運動

で、農業の振興が図られた成果である。さらには、リゾートやゴルフ場などもあった。温泉の位置する村の人口は500人程度、戸数は140戸程度のとのこと。

ポークアーン温泉は、2000年の開業で、当初はサムーン川に沸く温泉だけだった。当時は、シカやウシが川砂を餌として、食べており、村人は温泉成分の存在を理解したとか。経営者はバンコク出身（潮州系）で獣医（公務員）。近くの村に別荘を建設し、別荘生活を楽しんでいた。村人が温泉の存在を申し出て、1997年に買収し、開発を決意したとか。

土地は元水田で、敷地面積は10ライ（1ライ=1,600m²）で、購入額は50万Bと言われる。センター（管理棟）、レストラン、キッチン、WCを整備した。外からのお客はキャンプを楽しみ、村人はかぶり湯を行っていた。2003年、現在の温泉施設が完成した。大浴場（2カ所）、個室浴場（10カ所）（写真8）、露天風呂、マサージルームなど。

2007年には、下流の方で、コテージ4棟を建設し、宿泊の需要に対応した。2008年には、上流部で、キャンプ場を整備し、打たせ湯を付帯した。打たせ湯は現在故障したままとなっている。2010年からホテル形式の客室を整備し、1階で10室、2階で7室を整備する予定である。1階はすでに完成しているが、2階は建設中である。

利用客はタイ人が大半で、日本人は少ない。週末の利用が目立ち、1泊とか2泊の形態である。12月と1月の冬季はオンシーズンで、キャンプを楽しむ若者が多い。これに対して、オフシーズンは6月と7月の雨季となる。

温泉利用客は、1日当たり、少ない時で5人から10人、多い時で100人。オンシーズンでは温泉入浴で行列が出来ると言う。年間のおおよその宿泊客数は、ホテル200人、コテージ100人、キャンプ500人（200テント）となる。利用料金は、温泉150B、テント250B（食事、温泉付）、部屋（ホテル）1,500B（1人。食事無）となる。

経営の方針は、自然を活かすこと、木を切らないことで、電気は夜間のみで、19時から21時30分が点灯時間となる。スタッフは、マネージャー2人、料理・雑用・掃除など6人（オンシーズンは4人プラス）で、その内、英語を話すスタッフが1人。スタッフの日給は250Bで、毎日が忙しくて、休む暇はないとか。収容は120人程度で、テントは50（テントの数は30）人。利用客は、温泉入浴の他に、トレッキング、ハイキング、山登りを行うケースもある。

温泉は河川敷から湧いており、大きな孔が3カ所、小さな孔も数カ所存在する。泉温は40~60℃、4月は70℃に上昇する。サウナは、村の指導者のもとで行われ、10人以上の予約制で、利用料金は50B/人となる。温泉タオルは100人分/日を用意する。

我々が、滞在中、チェンマイ在住のLSの日本人の方がやってきた。ガイドの案内で、7人の方が入浴を楽しまれた。その他に、タイ人の若者1組（4人）、外国人1組（4人）で、いずれも車を利用していた。LSのAさんの話では、現在、住むアパートは5,000B/月、水道代は100B/月、料理は自炊とのこと。昼飯は、途中の市場で買ったパンとか果物となった。ドリアンもあって、これは2回目である。

夕飯と朝食は、宿泊代に含まれていた。地元のオバちゃんを作るタイ料理で、美味しかった。夜は電灯がつかず、充電に困った。結局、19時45分から21時35分まで電気はついたが、デジカメの充電に戸惑った。一時、サユリさんからカメラを借りて、撮影を行った。

4. 2012年8月24日（金）：ポーン・ドゥアット温泉

8時起床。少しだけまわりを散歩した。8時30分から朝飯。9時40分、出発。途中、ぶどう畑があった。10時45分、セブンイレブンでトイレ休憩。今晚の食事などを買った。

11時30分頃、街の市場に立ち寄った。食事がつかないとかで、サユリさんは、水、そしてパンやお菓子などを購入していた。椰子の実実は20Bが18Bとなった。もち米は215Bで、これは実に美味しい。

12時20分、途中のロードサイドのレストラン「Green」で昼飯。ここは2012年1月に開業したばかり。感じの良い店だった。タイ風の焼きそばなどを食べた。4人で280Bを消費した。夕飯としてスパゲティ65Bを頼んだ。テイクアウトである。

13時40分に出発し、14時20分に目的地のファイ・ナムダン国立公園に着いた。入場料は外国人200Bと高い。タイ人は40Bで、車は30B。ドライバーとガイドは無料となる。ビジターセンターで聞き取り調査を実施したが、公務員のため、責任逃れで、回答はなし。困ったことになった。止む無く温泉施設のスタッフに聞き取り調査を実施した。15年前に、温泉施設を整備。国王の姉が来園し、森林+温泉として、温泉施設が開発された。温泉はメイテン川の河床から湧いており、これを村人がかぶり湯をしていたのである（写真9）。スタッフはボスを含めて20人程度。宿泊施設はコテージ8棟、テントなど。今夜、泊まる予定が6棟は改築中、2棟は満館だった。コテージの利用は1棟4人2,000Bで、食事はレストランの利用となる。キャンプ場の利用は30B/人で、テントの貸し出しは350B/3人利用となる。

オンシーズンは10月～1月までの冬季で、12月がピークとなる。オフは6月と7月。ピーク時は200人程度の利用があるとか。利用客は、欧米系が多く、特に豪州からが目立つ。タイ人と日本人は少ない。日帰り客が多く、ジャングルツアー、ラフティング、山登りなど行う。宿泊先は、カレン族の村などを利用するとか。

源泉はメイテン川の河川敷に湧いており、大きな孔2カ所、中規模の孔4カ所を確認し、小さな孔が無数あった。温泉卵を作って、食べた。温度は、90～100℃とのこと。

温泉施設は、男女別露天風呂、室内風呂、プールなどがあった。いずれも水着着用である。室内風呂では、タイ人のカップルから話を伺った。彼はバンコクで仕事をしており、現在、帰省中とか。温泉が好きで、各地の温泉を巡っているらしい。温泉湧出地で、カナダからの若い女性にあった。カルガリーの出身で、タイ滞在20日の内、15日目とか。チェンマイからレンタルバイクでやってきていた。彼女はこれからプールに入るらしく、我々は時間不足で、残念ながら退散した。

16時45分に出て、17時46分、ファイ マンダン国立公園に着いた。今夜の宿泊場所だ。高山の公園で、寒かった。食事はつかないので、夕食はスパゲティ、朝飯はクロワッサンのパンとか、バナナなどを食べた。雲海が名物の公園らしい。ビジターセンターがあって、ここが宿泊の受付だった。18時から5人で夕飯。シャワーしか無いので、寒かった。

5. 2012年8月25日（土）：モン族の村、ドイサケット温泉、帰国

ドイサケットは、チェンマイの北郊で、チェンライに至る街道沿いから少し入ったところにあった。山から一端降りて、再度、北へ向かうので、時間がかかった。9時30分に宿泊先を出発し、途中、ロードサイドの店で買物。ココナツを飲んだ。20B。

11時53分頃、チェンマイ大学を通過して、12時20分、モン族の村に着いた。ここは30年

ぶりだと思う。店が沢山増えていた。南の紛争地から逃げて来たイスラム教徒が食堂を開いていた。トイレは20B、記念撮影は120Bと商売熱心である。

13時10分に村を出て、冬のパレス、寺院でカメラストップを行った。サユリさんの自宅を経由して、14時25分、昼飯。麺類を頂いた。美味しい。麺は1碗20B程度。

食後、3人の王様の像を見学して、14時52分発。途中、スコールに遭いながら、14時42分、ドイサケット温泉に着いた。

ドイサケットでは、代表者の方に取材をした。1人は温泉で蒸した竹の子の販売。2002年の開業。村人6人で出資し、経営をしている。主にチェンマイ方面で販売。

源泉は原野で湧出し、温泉は池を作り、川となって流れていた(写真10)。川はメイライ川の源流らしい。付近の河川は小川の状態、護岸の整備が計画されている。源泉は2孔。温泉は戦後からあって、詳細はわからないらしい。25万Bの売上があって、利益は8万Bとのこと。残りは村や国へ利用料として支払っているとか。

もう1人は、施設の経営を行なっている。開業動機は、暇な生活、仕事なしの状態から脱却するため、主婦のパワーが源となっている。主な施設は、売店、温泉施設、マッサージ店などである。村人6人で共同出資をして、経営を行なっている。施設は1998年に開業した。

温泉利用は、1日、少ない時で10人~20人、多い時で100人程度。オンは12月と1月、オフは4月となる。マッサージは20人程度となる。温泉利用の料金は、1人当たり、個室の普通浴室(5室)30B、特別浴室(2室)70Bとなる。

タイ人と日本人の利用が多く、欧米人はチェンライからの帰路に立ち寄るケースが大半。テントの利用は12月に多い。10から20程度のテントが立ち並ぶ。場所代は50B。最初、利用者はテントの利用から始まり、温泉のかけ湯を楽しんだが、その後、お客の希望で、施設の充実を図り、今日に至っている。マッサージは120B/1時間で、100Bはマッサージ師、20Bは村の収入となる。温泉は7対3の割合で、7割が担当者の収入となる。

スタッフは20人程度で、女性のスタッフが大半。年商は50万B程度で、やはり半分以上の売上を村や国へ差し出している。

近年、界隈でリゾート開発が計画され、村人は神経をとがらせている。環境破壊に反対し、現状維持を主張している。そんな中で、2011年、温泉開発が行われた。土地は2ライで、経営者はピサヌロック出身のタイ人で、開発の途中、本人が死亡し、息子が経営をついでいる。隣に地主が住んでおり、売却額は2,000万Bとか。あと、4ライほど土地があるので、買わないかと言われ、一同苦笑した。温泉は地下3mから湧出しているが、地元民からの開発反対があって、開発は留まっている。

その後、16時30分、特別浴室で入浴をした。70B。普通浴室に入浴する予定の夫妻の話聞いた。チェンマイからのタイ人で、週に1回は夫婦で入浴をするらしい。個室の浴室は、浴室ごとに体裁が異なっていた。バナナを差し出したが、断った。こんな時に、日本からのおみやげを差し上げれば良いと感じた。

17時出発。スコールがやってきた。18時、ロビンソンデパートで夕食。反省会を行った。人気のレストラン富士は満員で、YAYOIにした。私が食べた弁当は145Bだった。

19時過ぎに、デパートを出て、空港へ。空港へは10分で着いた。以下、行程である。

TG 121 チェンマイ 20:50⇒バンコク 22:10。TG 622 バンコク 23:30⇒関西 7:00。

バンコクから関空までのフライトは、5時間25分。翌日、8月26日(日)、7時50分に関

空へランディング。

V. 9月の北京&山西省行き (2012年9月1日~10日)

1. チベット行きを断念

本来は、チベット訪問を目指したが、諸般の事情で断念。そこで、困った時の北京行きとなったが、10日間も北京滞在では飽きが来るので、山西省太原へ出向くことにした。山西大学へ訪問し、講座と温泉調査を行うが目的である。コーディネーターは、旧知の朱先生(山西大学)にお願いした。

北京でのホテルは前半の4泊が恒例の北京宝辰飯店、後半の2泊は北京国際飯店にした。山西省では前半の2泊は2星ホテル、後半の1泊は山西大学の招待所となった。飛行機は関空・北京往復がNH(ANA)マイレージ利用で、オイル追加などは1万7,420円程度だった。北京・太原往復が2万400円(運賃1万5,400円、手数料5,000円)。教え子の旅行会社に注文したところ、某大手旅行会社の見積の2/3の価格だった。大手だから安いとは言えないと実感した。

北京の前半のホテルは、エクスペディア(米国のネットエージェント)利用で、北京宝辰飯店4泊で合計3万104円(朝食無)、後半の北京国際飯店は友人の紹介価格ということで、1泊は650円(朝食付)で、2泊で1,300円だった。山西省での宿泊は先方の招待となった。

2. 2012年9月1日(土): 関空⇒北京

関西国際空港10時発のNH159便は、10時37分テイクオフ。13時6分、北京首都空港へランディング。いつもは、空港バス16元か、空港快速25元を利用しているが、タクシーにした。その方が身体に楽だと判断したからだ。いまさら遅いが…。行き先は北京宝辰飯店。予め行き先を紙に書いて、北京語で話しながら、ドライバーに示した。タクシーは10分待ち。13時5分発で、40分でホテルへ着いた。104元プラス1元(チップ)だった。外は小雨で、夜には大雨となった。

ホテルの部屋は802。少し休憩して、北京駅東の「中国工商銀行」へ。ホテルから5分程度。銀行の中に警備員がいるので、「チェンジ」と言って、日本円を示すとOKとなる。書類の記入台で金額などを書いて、待つことに…。空いていれば、すぐの案内となる。3万円を両替したが、2,348.74元だった。空港とか、ホテルなどでの両替は手数料をとり出したので、銀行での両替が一番だと思う。言葉は「チェンジ」だけ…。そしてパスポート。

16時、ホテルが入居する地下1階の時計店で、時計のベルトを新しいものに交換した。日本だと1,000円程度だと思うが、75元と高かった。やれやれ!

3. 2012年9月2日(日): 楊梅竹斜街、瑠璃廠

午前珍しく雨。午前中はテレビ観戦。昼飯は美国加州牛肉大王で、牛肉面セット23元。午後から晴れたので、12時50分、地下鉄で瑠璃廠へ。いつもの楊梅竹斜街は道路の工事中で、2012年12月末に完成するとか。知り合いの散髪屋は全て閉鎖中で、大柵楼に近い散髪屋に入って、マッサージをした。13時15分から17時10分まで、556元の支払いとなった。最初は45分で58元のマッサージだったが、日本人と知ると、次から次へと提案され、オイ

ルマッサージ 158 元、耳そうじ 10 元、修脚 30 元など。修脚は足の裏のアカ落として、これは実に気持ちが良い。屋号は「美観酷美髪店」という。

17 時 30 分から王師傅と夕飯。いつもの民俗酒楼。北京ダックは 68 元、ネギなどは 14 元で、全部で 160 元消費した。印鑑を注文した。19 時、地下鉄でホテルへ。北京駅では、B（東北口）がホテルに近い。出口が A・B・C・D とあるので、最初の人は分かりづらいみたいだ。

4. 2012 年 9 月 3 日（月）：中国旅游書店、楊梅竹斜街、大柵欄、前門、瑠璃廠

8 時起床。朝飯は昨夜の残りのカボチャの餅。これが実に美味しい。4 個食べた。10 時からいつもの中国旅游書店。温泉関係の本を 285 元消費した。係の女性とは旧知なので 1 割引となる。そのためには、常にお土産を持参する必要がある。

午後から楊梅竹斜街へ。同じ所「美観酷美髪店」でマッサージをした。今度はメニューがさらにアップして、632 元となった。13 時 15 分から 17 時 15 分まで。2 人がかりだった。「カモあり、遠方より来る」の典型だと思う。やれやれ。

5. 2012 年 9 月 4 日（火）：北京国際飯店、小湯山温泉

8 時 30 分、起床。朝飯は、昨夜の残りのカボチャの餅。9 時 50 分、北京国際飯店の朋友である張氏へ電話。ホテルへ行って勤務中の彼から色々と話を聞いた。給料は 1,890 元。今後、昇給しても 3,000 元程度らしい。2 歳の娘の件で愚痴を聞いた。保育料は 1,890 元/月で、自分の給料と変わらないとのこと。地元には保育園がないので、隣の町の保育園へ。日本語で言えば、越境入学で、入学の際の費用は 3 万円/2 年と高い。高いところは、8~10 万円もあるとか。

彼のコンシェルジュとしての仕事は、早番 7 時~15 時 30 分、遅番 15 時~23 時で、休みは月曜日と土曜日。奥方は銀行員で、毎朝、娘を保育園へ連れていくが、お迎えは彼の仕事となる。夕方は、娘のお迎えと食事作り、洗濯などが日課となる。遅番の場合は、奥方の姉にお迎えを頼んでいるとか。3 ヶ月前から、いまの保育園へ通っているが、その際、夫婦の健康診断が実施され、伝染病などを調べられたとか。厳しいと思う。

彼の母親は、別のところで住んでいたが、3 ヶ月前から同居し、母親の家は、950 元/月で貸し、生活の足しにしている。そのため、ベッドルーム 2 室は、妻と母親が使用し、自分はリビングのソファで寝る生活をしているとのこと。国際飯店は 1,100 人が勤めており、その他にアルバイトが 400 人。8 時間勤務で、80 元/日。北京人は 30% 程度に過ぎない。11 時から社員食堂でご馳走になった。朝は 8 元、昼 15 元、夜 10 元とのこと。ボリュームは多いと思った。しかし、味は保証しない。珍しく食べ残した。

12 時、北京駅から地下鉄で天通苑北へ。50 分で着いた。今度は 643 路のバス。一卡通（交通カード）を使用しており、たぶん 1 元で、小湯山鎮人民政府のバス停で下車。30 分で着いた。早速、大柳樹村温泉浴池へ。浴槽の写真を撮るつもりだ。受付で 5 元支払う。何か言われたが、意味不明。着替える前に、浴槽を見たら、浴槽が消えていた。壁にシャワーのみがあった。驚き桃の木…。結局、5 元を返してもらった。

そこで、小湯山鎮村浴池へ。ここは村外者 6 元となる。2 人入浴中だったが、30 分ほど待って、やっと浴槽写真をとった。満足。とはいえ、入浴のマナーが大変悪い。浴槽に腰掛け

て、身体を洗う者が大半だ。ところで、シャワーだが、10の内4つが使用可能だった。

17時18分、いつもの菊水亭へ。サンマ定食を食べた。26元と安い。牛肉面より当然美味しいと思った。昼はソーメン弁当30元があるとか。ここのスタッフは日本料理とはいえ、日本語がまったく話せない。9月5日は、太原行きとなる。

6. 2012年9月5日（水）：北京⇒太原⇒陵川

8時起床。10時15分、チェックアウト。ボーイにタクシーを頼んだ。チップは10元。30分で北京首都空港（第2ターミナル）へ着いた。早くて楽ちんだ。運賃は71元だが、高速代7元、チップ2円で、80元手渡した。安いと思うが、中国人からみれば、高いらしい。

11時、G21でチェックイン。MU5296だ。14時47分、太原の空港へランディング。朱先生のお迎えがあった。結局、朱先生の車に、当方を含めて5人が乗車。温泉調査ではなく、観光施設の立地調査となった。行き先は洛陽に近い「陵川」というところだ。山西省の南部に位置する。高速道路を300キロ走るドライブらしい。15時に高速に乗って、途中トイレ休憩をして、18時22分に陵川へ着いた。県都らしい。高速道路沿いからとうもろこしの畑が沢山見えた。

ホテルは2星で陵川賓館。1泊は288元（朝飯付）とのこと。18時45分から20時20分まで、打ち合わせを兼ねて夕食。我々5人以外に関係者2人が出席。つまり、[紅豆杉大溪谷]の観光施設立地調査となった。明白。

明日は7時15分発のこと。2星の部屋は中国初体験で、かなり苦痛だった。まず風呂だが、シャワーは熱湯が出ない。しかも、トイレと一緒に水浸し…。2泊もするなんて。

7. 2012年9月6日（木）：陵川⇒紅豆杉大溪谷

6時半起床。山なので、寒い。7時15分、朝食。豆乳が美味しい。8時、ホテル発。8時40分過ぎに紅豆杉大溪谷の入山基地について（写真11）。10分ほど前から溪谷がはじまり、谷が実に深いと思った。道中、ハイキングのグループに遭遇した。9時から溪谷の沢登りが始まった。事前の説明がなく、気楽に考えていたが、川沿いの沢を登るらしい。靴を脱いで川を渡ったり、滝を登ったり、大変なことになった。途中、滝があったので、二流の滝、多流の滝、そして、岩の河川敷には千畳敷などと命名した。

12時30分、小壺口瀑布に到着（写真12）。一般の人はここが目的地となる。付近は、中国国家地質公園に指定されている。少し登った食堂で、12時50分から40分まで昼飯。面（麺）だった。実に美味しい。その後、さらに溪谷を登った。キャンプ場、駐車場、ホテルなど観光施設の位置選定などを行い、調査団の団長を務める朱先生から助言を求められた。ここは、中国3大溪谷になると伝えた。大きな話が好きなので、ホラを吹いてしまった（苦笑）。ちなみに他の2つは桂林と九寨溝溪谷となる。18時、紅豆杉大溪谷の入山基地に戻って、その後、村の農家食堂で夕飯。20時過ぎにホテルへ着いた。いつの間にか、大雨だった。

8. 2012年9月7日（金）：紅豆杉大溪谷、太原

6時30分起床。7時過ぎから朝飯。色々打ち合わせがあつて、9時30分頃出発し、10時30分頃、紅豆杉大溪谷の入山基地に着いた。本日は、昨日の補足調査で、ロープウェイ建設地、支流の滝登りなどをした。滝登りはかなりきつい。支流の奥の大滝を「天竜の滝」と命名

した。14時45分、紅豆杉大溪谷の入山基地の食堂で遅い昼飯。やはり面（麺）だった。聞くところによると、この溪谷の開発主体は民間で、経営者の出身地は江蘇省で、衣料品工場、続いて、石炭の採掘で財をなし、現在、ホテルなどを経営している。この開発は2009年から計画しており、今回、再度開発を実行に移すことになったとか。

15時50分、基地を出発し、高速道路を飛ばして、20時に太原についた。高速道路代は1,050元とのこと。本当は、夕方から山西大学で「温泉講座」を開催する計画だったが、調査がズレこんで中止となった。残念。日本から学生のためにボールペンを多数持参していたが、次回にすることにした。夕飯はお粥の店だった。ここは2010年10月にも訪問した店で、美味しい店だ。5人で180元。席上、今回の感想を求められた。「日本の開発は高度経済成長期で終わっており、今回はとても勉強になった」と伝えた。私の子供の頃に、日本は観光開発を進めており、中国は50年ほど遅れていることになろう。「日本と同じ失敗をして欲しくない」と伝えたかったが、言わないことにした。そして、飲めないながら、何度か乾杯をした。乾杯は友情の深化の証と言われた。21時10分、山西大学の招待所。PCなどもあて、設備は素晴らしいと思った。ロビーで東京国際大学の関係者がいた。

9. 2012年9月8日（土）：山西大学、瑠璃廠

7時起床。8時から招待所で朝食。8時40分、王女史（朱先生の奥方）と子息（日本留学中）の案内で、山西大学のキャンパス内を見学した。入学生は4,000人とか。ちょうど入学前の書類渡しを学部ごとで行っており、テントの前は長蛇の列だった。学生数は2万人で、学部生1.3万人、院生0.7万人とか。教員は1,100人、事務職員200人らしい。教授クラスの給料は5~6万円/年とのこと。

11時から朱先生ファミリーと一緒に招待所で昼飯。4人で160元だった。11時55分、大学発。空港には12時15分に着いた。フライトは13時30分。荷物は17キロだった。

北京首都空港（2号楼）へは14時36分ランディング。タクシーに乗った。15時12分発で、国際飯店には16時8分に着いた。79元+1元。チップは不要だった。

早速、国際飯店にチェックイン。部屋は1425。フロントで500元デポジット（預り金）。カードで支払った。日本人はデポジットの制度が分からないらしい。17時50分から19時まで、瑠璃廠の民俗酒樓で、王師傳と夕飯。2人で149元。注文していた印鑑が完成しており、13個で1,400元支払った。2万円近い大金だと思う。ホテルの前で久しぶりに客引きにあった。お相手が中国人だと1,000元、外国人だと1,300元らしい。

10. 2012年9月9日（日）：小湯山、菊水亭

8時30分起床。国際飯店の張氏から甘栗のお土産を頂いた。30袋（1袋は150g）でかさばった。11時過ぎに地下鉄で天通苑北へ。バスを乗り継いで、小湯山医院で下車。

12時40分から13時35分まで、小湯山双興温泉浴池で入浴。12元。浴槽写真をとろうとしたが、出入り10人ほどいて、断念。個室風呂の料金を調べた。1時間で40元、60元。前者が普通の部屋で、後者が高級部屋となる。帰路は、14時過ぎにバス乗車。地下鉄を乗り継いで、北京駅へ15時20分過ぎに着いた。

15時50分から18時まで、張氏と夕飯。菊水亭で自助。つまり食べ放題。1人112元だった。色々話を伺った。まずは年金とか保険の話。母の年金は2,200元/月で、病気の保険

負担は 15%、張氏は 40%、奥方は 15% で、現役の場合、支払いが多いほど、負担率は少ないらしい。張氏の保険だが、個人保険（太平洋保険）1,280 元/年、政府 1 万 2,120 元/年で、合計 1 万 3,400 元/年の支払いとなる。かなりの負担だと思う。

ところで、歯の治療だが、歯のかぶせ 3,000 元を含めて数回で 5,000 元を消費。1 回当たりの治療費は、120 元から 150 元。2007 年に大病した際、治療費は 5,500 元。1,100 元を支払って、残りは政府（60%）と太平洋保険の支払いとなった。父上が逝去した際、墓代（掃除込み）は 5.2 万元/20 年間。政府から 690 元の補助があった。

そして、昨夜の客引きの話をした。見知らぬ女性を何かの目的で客室に入れると、本人が入浴中に仲間の男を引き入れて、現金を盗むとか。最近の話では、男 3 人が侵入して 2 万円相当を盗んだ事件があったとか。犯人はホテルのビデオから足がついて逮捕されたとのこと。別の国でもよく聞く話で、こうしたことは国際的だと思った。

11 月、全人代（国会）が開催され、その際、国際飯店は関係者の宿泊所となる。スタッフの身元調査が始まり、本人以外に、奥方、両親の氏素性まで調べられたとか。初めての経験らしい。それくらい、政府は神経を注いでいることになる。18 時過ぎにホテルへ戻り、彼の通勤用のバイクを拝見した。驚いたことに電動バイクだった。本来は 2,000 元だが、新中古で 400 元。時速は 40 キロ。明日は帰国なので、11 時にタクシーで空港へ向かうと話をしたところ、彼は自分の友達に対して、私の空港までの見送り用の車手配を頼んだ。

11. 2012 年 9 月 10 日（月）：帰国

8 時 30 分起床。8 時 50 分、朝食。久しぶりに北京国際飯店のバイキングとなった。巻き寿司が空気に触れてカサカサで、まずい。せっかくの日本料理だが、これでは食えない。11 時、張氏の友達が自家用車でやってきた。ありがたいと言うか、なんというか。これが中国流のサービスである。11 時 30 分過ぎに首都空港（第 3 ターミナル）へ着いた。ANA でチェックインをしたところ、甘栗の関係でスーツケースは 25.9 キロだった。過去最高だと思う。

VI. おわりに

「継続は力なり」。最近「継続は努力なり」と思うようになった。1977 年 8 月から続けた海外旅行は 2012 年で 35 周年となった。今回、報告した 2012 年の旅日記は、旅の途中の一部に過ぎないが、臨場感溢れる雰囲気伝えることが出来たら幸いである。

付記

本報告は、今日新聞の 2013 年正月号に掲載した内容に加筆・修正したものである。



写真1 8号温泉商務会館(外観)



写真2 8号温泉(浴槽)



写真3 GREEN HILL(外観)



写真4 ONSEN(宿泊棟)



写真5 ONSEN(客室)



写真6 ONSEN(源泉)



写真7 ルンアルーン温泉(浴槽)



写真8 ポークアーン温泉(個室浴場)



写真9 ポーン・ドゥアット温泉(源泉地帯)



写真10 ドイサケット温泉(源泉池)



写真11 紅豆杉谷溪谷の入口



写真12 小壺口瀑布の景観